



# 同志社大学大学院博士後期課程 次世代研究者挑戦的研究プロジェクト (SPRING)

## Guide for the Candidates



# 目次

---

1. プロジェクト事業統括からのメッセージ	3
2. プロジェクトの概要	4
3. 目指す人物像	5
4. プロジェクトの特色	6
5. プロジェクト生の義務等	7
6. プロジェクトが提供するプログラムの全体像	8
7. 各プログラムの紹介	9
8. プログラムの年間スケジュール	17

同志社150周年、  
その先の未来はあなたの双肩に。  
真理の扉を開き、新たな道を拓け!

## 事業統括 小原 克博(同志社大学学長)

本プロジェクトは、科学技術・イノベーションの将来を担う博士後期課程学生を支援するものです。現代社会が抱える問題はいずれも複合的なものであるため、一つの専門領域だけで解決することはできません。専門的な知見を備え、同時に社会の諸課題を俯瞰する力が求められています。本プロジェクトのもとで、課題解決のためのそうした能力を養ってください。

同志社の設立者・新島襄は次のような漢詩を書き記しています。

真理似寒梅敢侵風雪開

(真理は寒梅のごとし。あえて風雪を侵して開く。)

新島は、真理を社会や時代の趨勢に挑戦する力として語っています。そして、このような挑戦する精神を同志社は受け継いでいます。みなさんが次世代を担う、挑戦的な真理の探究者となられることを願っています。



# プロジェクトの概要

- 本プロジェクトは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の支援を受けて実施しています。

## 【事業の目的】

- 博士後期課程学生による既存の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・融合的な研究を支援
  - 生活費相当額を含めた研究奨励費等を支給することで学生が研究に専念できる環境を複数年度に渡り安定的・継続的に整備
  - あわせてキャリアパスの支援等を行い、優秀な博士後期課程学生を多様なキャリアで活躍できる博士人材へと導く
- 本プロジェクトは、みなさまに「科学技術・イノベーションの将来を担う、最先端の科学技術の創出能力と個の尊厳とヒューマニティを損なわない倫理や良心を備えた高度専門人材」となっていただくことを目的としています。
- 本プロジェクトは、生活費相当額を含めた研究奨励費等の支給によって、皆さまが研究に専念できる環境を整備するとともに、研究者としての能力向上やキャリア形成のプログラムを提供します。単なる奨学金制度ではなく、生活費相当額の支給による研究時間の確保と、研究者としての能力向上・キャリア形成のプログラムを一体的に提供する点に特徴があります。いずれか一方の支援だけを受けることはできません。

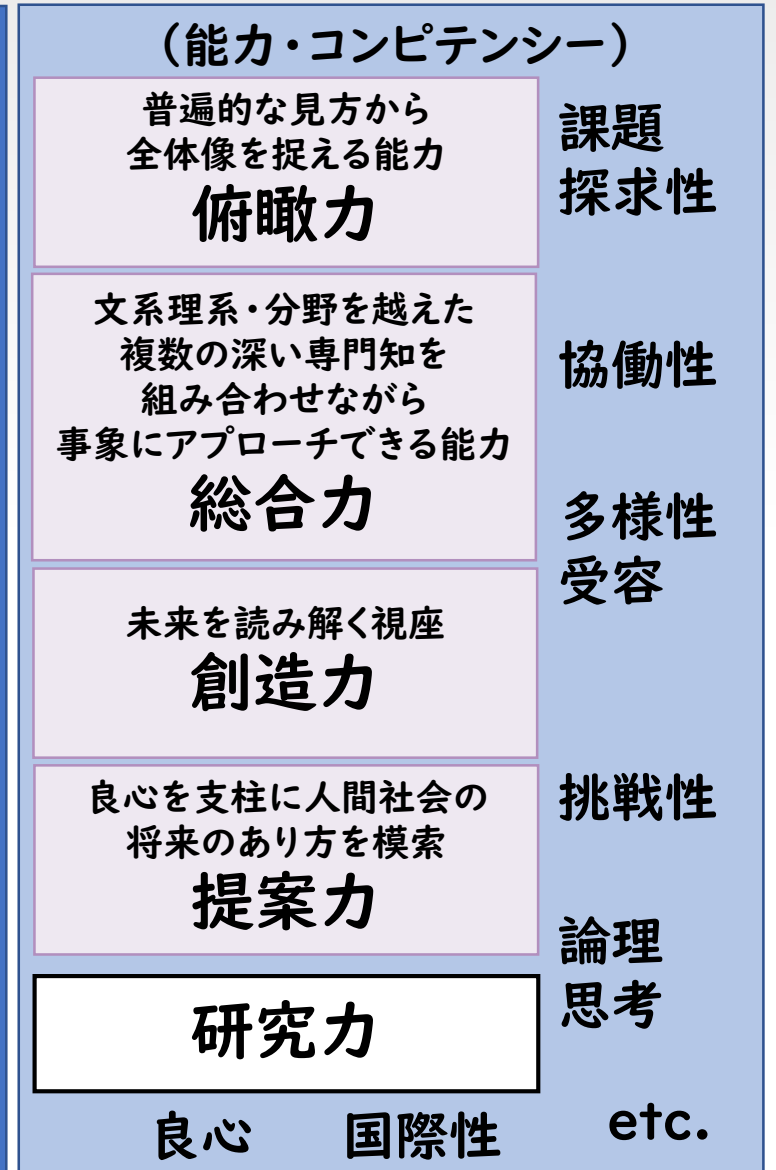
本冊子をご覧いただき、プロジェクトの目的、プロジェクトが提供する各種プログラムをご理解の上、積極的に取り組んでください。

# 目指す人物像

「科学技術・イノベーションの将来を担う、最先端の科学技術の創出能力と個の尊厳とヒューマニティを損なわない倫理や良心を備えた高度専門人材」

本プロジェクトは、本学が理念として掲げる、高い学術研究力による深い学識と卓越した実践能力を用いて時代を切り拓き、異なる価値観・世界観を持つ他者や異文化を理解し、協働できる真の国際人の養成に向け、人文・社会・自然科学の相互理解力を涵養し、グローバルな視点で将来の社会課題を予測しながら解決する高度専門人材の養成を目指しています。

## （高度専門人材）



# プロジェクトの特色

## 1. トランスファラブルスキル(Transferable Skills)の習得

将来の予測がより困難な時代を迎え、キャリアパスは多様化しています。変わりゆく社会で活躍し続けるには、大学院で学び得た高度な専門スキルに加え、どのような場所においても普遍的に活用できるスキル(=Transferable Skills)が重要です。

大学院共通科目「アドバンス・リベラルアーツ科目群」のなかから、指定科目の履修を通して、当該スキルの獲得を目指します。特に、研究分野の枠や大学と企業との組織の壁を超える「協創」(社会人も交えた共同ワークショップ方式)をベースにした科目「フューチャーデザイン演習」は必修としています。

## 2. 国際性の涵養

研究者としてのキャリアのためには自身の研究の国際化は必須です。価値観や世界観の違いを超えて他者や異文化を理解し、協働、切磋琢磨できる国際人となれるよう、海外活動経験を積んで頂きます。

自身の研究の世界的なポジションを分析し、研究を国際的に発展させる計画を立案・実行することを求めます。海外活動の実施に当たり、海外活動費の配分を行うほか、立案段階から、運営チームによるサポートも行います。

このほか、本学協定校であるドイツ:テュービンゲン大学での研究者交流会や、海外の現地企業が抱える課題を企業社員と共に議論する「On-site Group Work」(正課科目:ALA科目群)などのメニューも用意しています。

## 3. 挑戦的・融合的な研究に挑む姿勢(挑戦力)の醸成

現代社会が抱える問題はいずれも複合的なものであるため、一つの専門領域だけで解決することはできません。また、イノベーションを起こすには、既存の枠組みを越えて、社会課題への挑戦、新たな領域の開拓、世界に股をかける実践を目指そうとする意欲的な者が必要であり、博士後期課程学生はその一翼を担う存在として期待されています。

本プロジェクトでは、みなさまが積極的に、より挑戦的・融合的な研究に挑む姿勢を醸成します。自身の研究をもとにした、より挑戦的・融合的な研究への発展計画を募集・選抜し、研究費の追加支援を行います。従来 of 枠に収まりきらない挑戦的な研究計画を期待します。ぜひ、積極的に挑戦してください。

## 4. 研究者としての発展を支える総合的支援

所属研究科における専門分野の学び、本プロジェクトを通じたキャリア開発に専念いただけるよう、生活費に対する金銭的支援(研究奨励費:年額180万円)を行います。また、研究費の支援(年額40万円)を行い、研究費計画の策定から執行に至るプロセスも学んでいただきます。さらに、研究者として獲得しておくべき知識や能力習得のための各種研修・講座などを受講していただきます。

このほか、博士課程修了後の幅広いキャリアパスを知っていただくためのガイダンスや座談会の開催、企業研究者等との交流会、キャリア・コーディネーターによる進路相談・カウンセリングなどを用意しています。研究者のキャリアパスとして、アカデミア以外にも視野を広げてください。

# プロジェクト生の義務等

本プロジェクトが目指す「科学技術・イノベーションの将来を担う、最先端の科学技術の創出能力と個の尊厳とヒューマニティを損なわない倫理や良心を備えた高度専門人材」の養成のため、本プロジェクトが提供する各種プログラムに計画的に取り組んでいただきます。博士課程修了後、研究者や専門職として社会に貢献するためには、特定分野の深い専門知識に加え、倫理的な視点や異なる文化・価値観を理解し協働する力、どのような場所においても普遍的に活用できるトランスファラブルスキルが求められます。本プロジェクトでは、そのための実践的なプログラムを多数用意しています。目の前の研究だけでなく、将来のキャリア形成に目を向け、国際的に通用する様々な知識・経験・スキルを身につけてください。

なお、プロジェクト生には以下の義務が定められています。義務の履行状況が芳しくなく、改善が見られない場合は、プロジェクト生の資格を喪失します。また、支給された研究奨励金等の返還を求める場合があります。

## 1. 採用期間中の義務

- ・同志社大学研究倫理規準を遵守すること。
- ・同志社大学における研究活動上の不正行為への対応に関する規程に定める責務を果たすこと。
- ・同志社大学公的研究費の運営・管理に関する規程に基づき研究奨励費等を適正に執行すること。
  - \*研究奨励費等の適正な執行のために、自身の研究を大きく発展させるための研究計画と、そのための効果的な研究費の使用についての研究計画書を毎年度初めに作成し、提出することを求めます。
- ・本学及び科学技術振興機構が指定する研究倫理教育を履修すること。
- ・事業統括が指定するキャリア形成ガイダンス、企業交流会等のキャリア開発支援プログラムに参加すること。
- ・高等研究教育院のアドバンス・リベラルアーツ科目群に設置するキャリア形成支援科目のうち事業統括が指定する科目を履修すること。
- ・自身の研究を発展させる、もしくは研究者としての発展につながる海外活動を計画・立案し、指導教員の確認を得た上で提出すること。
- ・科学技術振興機構が本事業のために実施する学生交流会等の諸行事に参加すること。
- ・科学技術振興機構及び本学が実施する各種調査に協力すること。
- ・学会等への参加、論文の投稿、口頭発表及び研究論文のセルフアーカイブを積極的に行うこと。
- ・活動報告書を事業統括に毎年度提出すること。
- ・文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP)の博士人材データベース(JGRAD)(以下「JGRAD」という。)に登録すること。
  - \*「事業統括が指定するキャリア形成ガイダンス、企業交流会等のキャリア開発支援プログラム」、「事業統括が指定する科目」は、16頁の一覧表を参照してください。

## 2. 採用期間後の義務

- ・本学及び科学技術振興機構が実施する博士課程修了後の追跡調査に協力すること。
- ・JGRADの情報を逐次更新すること。

# プロジェクトが提供するプログラムの全体像

本プロジェクトでは、「研究力の向上」「国際性の涵養」「トランスファラブルスキルの習得」を重視した能力開発と、個人の状況に合わせたオーダーメイド型のキャリア支援を行います。

## ◆トランスファラブルスキルの習得◆

- ・アドバンスト・リベラルアーツ (ALA) 科目群
- ・「フューチャーデザイン演習」

## 研究力

計画立案力  
課題探求性  
挑戦性

## ◆研究力の向上◆

- ・プロジェクト内競争型研究費
- ・能力開発支援パッケージ (データ管理、英語論文執筆・プレゼンテーションなど)
- ・オープンアクセス支援

## トランスファラブル スキル

俯瞰力、総合力、  
創造力、提案力  
倫理・良心

## 国際性

異文化理解  
多様性受容  
国際連携力

## ◆国際性の涵養◆

- ・個人計画型海外活動費
- ・異分野・異文化交流会
- ・国際研究広報支援
- ・海外オンサイト実習
- ・国際連携校との研究交流

## ◆個人の状況に合わせた 総合的キャリア支援◆

- ・キャリアガイダンス
- ・国内外インターンシップ
- ・キャリア面談
- ・博士キャリアメッセ (京都クオリアフォーラムとの連携)

博士キャリアコーディネーター等による総合的支援  
(個人の状況に合わせた総合的なキャリア支援)



# 各プログラム紹介（基本プログラム）

## ● 研究奨励費の支給

毎月  
原則25日

博士後期課程は、研究者としてのキャリアを歩む上で、数少ない「研究に専念できる貴重な期間」です。また、社会に出た後、どのような場所においても普遍的に活用できるトランスファブルスキルを習得できる「学びの場」にもなります。

プロジェクト生が、自身の研究に専念するとともに、本プロジェクトが提供するプログラムを通じたスキルアップ・キャリア開発に積極的に取り組めるよう、研究奨励費（生活費相当額、研究費としても使用可）を支給します。研究奨励費は、毎月、個人の口座に振り込み、プロジェクト生個人で管理していただきます。

なお、本プロジェクトの趣旨に反する状況が見られた場合（研究に専念しない、本プロジェクトが提供するプログラムに取り組まない等）は、研究奨励費の支給停止や返還を求められることがあります。

月15万円（年額180万円）

## ● 運営チームによる様々なサポート

随時

本プロジェクトの運営チームが、プロジェクトへの参画に伴う様々なサポートを実施しています。特にプロジェクト生に採用された直後は、わからないことがたくさんあると思います。様々なバックグラウンドを有する運営チームメンバーがサポートしますので、お気軽にご相談ください。

## ● 研究費の配分と管理

毎年度  
配分

プロジェクト生には、毎年度、自身の研究に使うことができる研究費を配分します。原則、翌年度への繰越はできません。研究費は、研究材料、図書・資料、調査委託費（アンケート調査等）、研究協力者への謝金など、所定のルールに基づき、研究活動を目的とする様々な用途に使うことができます。

研究費は、研究奨励費とは異なり、プロジェクト生個人に支給されるものではありません。研究費は、機関（プロジェクトの運営チーム）が管理し、購入した機器・備品等の管理も機関が行います（個人の所有物にはなりません）。研究費の利用に伴う様々な手続きをプロジェクトの運営チームがサポートします。

研究費の計画的な利用のため、年度当初に研究費の利用計画を策定していただきます。また、研究費の執行状況について、年3回程度のモニタリングを行い、研究費の計画的かつ有効な利用を促します。これらのプロセスを通じて、研究費の効果的な使い方を学んでいただきます。

40万円（年額）

# 各プログラム紹介（研究力の向上）

## 研究費計画書の策定

初年度  
4/18提出

プロジェクト生には、研究計画及び研究費の使用に関する具体的な計画を、毎年度、立案していただきます。限られた研究費を有効かつ計画的に活用することで、研究プロセスの質や効率を高め、着実な研究成果の創出につなげることができます。

研究費計画書の作成を通じて、研究者に求められる研究計画の立案能力、立場の異なる他者への説明能力、研究費の管理スキルの向上も目指します。

また、研究の進捗状況や実験結果によっては、研究費の使用計画を見直さなければなりません。研究費の執行状況について、年3回程度のモニタリングを行い、研究計画の進捗状況の確認や計画見直しなど、研究費の有効活用を促します。これらのプロセスを通じて、研究費の効果的な使い方を学んでいただきます。

## 挑戦的・融合型研究加速経費

審査/選抜  
プレゼン審査7月  
上旬(参加必須)

応募または聴  
講（期間中1  
回以上）

6/13-  
6/30  
募集

本プロジェクトへの申請時に提出していただいた研究計画に対して、研究費の追加受給により、より挑戦的・融合的な研究への発展を目指す計画を募集します。優れた提案には、追加の研究費を配分します（研究費の次年度への繰り越しはできません）。

応募者には、挑戦的・融合的な研究への発展計画（申請書）の作成に加え、本プロジェクト運営委員会委員（教員）やプロジェクト生に対するプレゼンテーションを行って頂きます。このプロセスを通して、研究計画の企画・提案能力、異分野の研究者に研究を伝える能力の向上を図ります。また、他の研究者・異分野の研究計画を聞く・知ることで、様々な気付きや新たな着想を得る機会とします。

研究費の追加配分（選考）は、申請書に基づく書面審査と、上記プレゼンテーションによる審査を総合的に判断し決定します。皆様からの積極的な提案を期待しています。

## 最大30万円（年額）の追加配分

## コミュニケーション・スキル

### 英語アカデミックプレゼンテーション研修

5月20日(田)  
6月3日(今)

期間中  
1回以上

英語は学術界やビジネスの共通言語です。英語を用いて、明確でインパクト・説得力のあるプレゼンテーションを行うことは、研究者にとって必須の能力と言えます。研究成果を英語で分かりやすく説明することは、グローバルな知識の共有や相互理解を促し、研究の質の向上には欠かせません。また、研究の協力者（研究資金や共同研究者等）を得ることや、国境を越えた協力関係を築くことにもつながります。

研修では、外部の専門家から、論理的な構成でプレゼンテーションを組み立て、要点を分かりやすく伝え、幅広い聴衆を引きつける方法を、座学や演習を通じて学びます。この研修で学んだことを国際会議等の場で実践し、自らの英語プレゼンテーション能力の向上に継続的に取り組むことを期待しています。

## ライティング・スキル

### 英語論文執筆ワークショップ

9月9日  
9月11日  
9月17日

期間中  
3講座  
1回以上

研究成果を英語論文としてまとめ、世界に向けて発信することは、研究者としてのキャリアを築く上で、最も重要なことのひとつです。国際的なジャーナルへの論文掲載は、研究者としてのキャリア形成や評価に一定の影響を与えるといっても過言ではありません。

また、研究成果を広く世界に知らしめることで、研究に対するフィードバックを得たり、国際共同研究への発展や研究成果の社会実装につながることも期待できます。そのためには、英語で質の高い論文を作成することが必要です。

外部の専門家を招き、ワークショップ形式で、論文執筆時に留意すべき点、対処方法、研究成果をより魅力あるものとして提示するための方法等を学びます。すでに英語論文を作成したことがある方も、この機会に基本から学びなおす機会となります。

# 各プログラム紹介（研究力の向上）

## 研究マネジメント・スキル

随時

期間中  
1回以上

- 研究データ管理研修（2023年度実施）
- 粗悪な学術集会に関するセミナー（2024年度）
- オープンアクセス推進セミナー（2024年度）

研究者として習得しておくべき基本的な知識や能力に関する研修を、毎年テーマを変えて実施しています。過年度分はアーカイブし、いつでも受講いただけるようにしています。

研究者には、研究の遂行能力に加え、研究や研究成果を適切に実行・管理する研究マネジメントのスキルも求められています。研究の実施に関する、さまざまな法令や規則が存在します。基本的な知識がなければ、意図しないトラブルを引き起こす可能性があります。さらに、研究成果の信頼性、透明性を担保する取り組みも重要です。正確で透明性の高いデータ管理は、再現可能な研究成果の裏付けであり、研究成果に対する他の研究者や社会からの信頼を得ることにもつながります。

最近では、研究成果（論文や研究データ）の即時オープンアクセス化を義務づける研究資金提供者も増えてきました。研究資金を獲得する上でも、様々なルールの理解・知識が求められています。

研究マネジメントは、研究者が持続的に成果を上げ、学术界や社会に貢献するための重要な手段です。研修、セミナーの受講を通して、研究マネジメント能力の醸成を図ります。

## 各種補助制度

- オープンアクセス支援

随時

研究成果を世の中に広く知ってもらうために、研究論文のオープンアクセス化（論文を誰でも無償でインターネットを通じて読めるようにすること）は有効な手段となります。一方、論文のオープンアクセス化には、論文掲載料（Article Processing Charges; APC）と言われる高額な費用が必要となることがあります。

本プロジェクトでは、要件を満たした研究論文に対して、論文掲載料（APC）の全額支援を実施します。なお、本支援は、「国際研究広報」支援との親和性が高いため、2つの制度を合わせて活用していただくことが効果的です。

世界中の研究者に自身の研究成果を広く発信することで、研究ネットワークの形成やキャリア形成にも大いに役立ちます。

# 各プログラム紹介（国際性の涵養）

## 個人計画型海外活動

毎年度計画  
海外での活動  
は期間中1回

初年度  
4月22日提出

プロジェクト生には、支援期間中に少なくとも1度は海外活動を実施していただきます。本プロジェクトへの申請時に提出していただいた研究計画をベースとして、より挑戦的・融合的な研究への発展や、そのために必要となるグローバルな能力を養うための海外活動計画を立案・実行していただきます。実質的な渡航に限らず、グローバルな能力を高めるための国内における活動（たとえば、異文化、異言語の研究者や研究コミュニティとの交流や発表等）も海外活動に含まれます。

プロジェクト採用期間全体を通して、どのように海外活動を自らの能力開発計画に組み込んでいくかを企画し、積極的に海外活動に挑戦することを期待します。

自ら企画・立案する海外活動のほか、ドイツ・チュービンゲン大学での研究者交流会への参加や、海外の現地企業が抱える課題を企業社員と共に議論する正課科目「On-site Group Work」の履修といった海外活動プログラムも用意しています。

## 海外活動費

希望者のみ  
審査

個人計画型海外活動の実行のために必要な費用（上限40万円）を海外活動費として支援します（海外活動計画に対する事前審査あり）。研究を目的とした海外活動（海外活動費（研究型））のみならず、自身のキャリア開発を主目的とした海外活動（海外活動費（キャリア開発型））に対しても支援を実施します。

## Doshisha Week at Tübingen Univ.

選抜

9月  
下旬

本学は、世界大学ランキング上位に位置するドイツ屈指の総合大学「チュービンゲン大学」と提携しています。両大学の関係は深く、30年以上にわたって教育・研究交流を深めています。チュービンゲン大学は本学に日本研究センターを設置、本学はチュービンゲン大学に海外キャンパス「EUキャンパス」を設置し、留学プログラムや教員交換、研究交流等を実施しています。毎年、両大学共催の国際シンポジウムの実施、若手研究者への研究発表や交流の場の提供等を目的とした「Doshisha Week」を実施し、数名のプロジェクト生を派遣しています。

本プログラムへの参加を個人計画型海外活動として位置付けることができます。参加にかかる費用（渡航費、滞在費等）は、本プロジェクトにて負担し、経費処理も事務局で行います。また、本プログラムに参加する場合も、海外活動費の配分を受けることが可能です。

現地での研究発表、研究交流を通じ、自分の研究を多角的に見直し、国際的な視点で物事を捉える力を養うことができます。また、異文化理解力や柔軟なコミュニケーション能力の向上も期待できます。

## On-site Group Work

審査  
選抜

博士課程修了後、専門分野での知識だけでなく、実践的な課題解決能力や他分野の人々と協働する力が求められます。この「On-site Group Work」講義は、海外現地訪問や異なるバックグラウンドを持つ仲間（社会人を含む）とのグループワークを通じて、理論と実践を融合させた解決策の構築を体験的に学ぶ絶好の機会です。多様な視点を持つ人々と協働し、現実の問題に向き合うことで、博士課程で培った知識をどのように社会で役立てるかを具体的に理解できます。この講義を通じて、研究者としてのキャリアにおいて大きな強みとなる実践的なスキルを身につけましょう。

本プログラムへの参加を個人計画型海外活動として位置付けることができます。参加にかかる費用（渡航費、滞在費等）は、本プロジェクトにて負担し、経費処理も事務局で行います。ただし、本プログラムに参加する場合は、個人型海外活動費の配分を受けることはできません。

## 異分野・異文化交流会

8月2日

期間中  
1回以上

1日もしくは合宿形式で、ワークショップ等を含めた交流会を開催します。交流会では、異なる専門領域のプロジェクト生が集まり、経験や知見を共有することで、新たなアイデアや視点を獲得する機会となることを期待しています。交流会における異分野のプロジェクト生との対話やフィードバックを通じて、自身の研究内容を多角的に見直し、従来のアプローチでは解決が難しかった課題に対する新しい解決策が見つかることや、思わぬ連携の機会を得ることも期待されます。このような交流会を通じて、研究者同士のネットワークが広がり、長期的なコラボレーションやイノベーションの創出につながることを期待しています。

## 国際研究広報

研究者にとって、研究成果を研究論文として取りまとめ、広く世界に発信することが重要です。論文をジャーナルに掲載することで、同じ学術領域の研究者に情報を届けることはできますが、研究成果によっては、より広範に情報を発信することが効果的です。

本プロジェクトでは、要件を満たした研究成果について、学術論文ポータルの一つであるEurekAlert!へのニュースリリースの掲載、そのためのニュースリリース文の作成（サイエンスライターに委託）を支援します。なお、本支援は、「オープンアクセス支援」との親和性が高いため、2つの制度を合わせて活用していただくことが効果的です。

自身の研究成果を世界に広く発信することで、研究ネットワークの形成やキャリア形成にも大いに役立ちます。

# 各プログラム紹介(トランスファラブルスキルの習得)

## 大学院共通科目アドバンスト・リベラルアーツ科目群(ALA科目群)

ALA科目群は、大学院で身につけた専門性を社会の現場でより活かせるように、大学院生に相応しい基盤的な能力を、専門性とは別の視点から身につけることができるよう設計した科目の集まりです。すなわち、本科目群は、未来の社会の諸課題に対して、普遍的な見方から全体像を捉える能力(俯瞰力)、複数の専門知を組み合わせながらアプローチできる能力(総合力)、未来の社会を読み解く視座(創造力)、良心を支柱に未来の社会のあり方を模索する能力(提案力)を意識的に身にまとい、諸課題に対して「専門外の補助線」を引き、本質を捉え新たな課題を探り、常に挑戦する姿勢の涵養を目的とするものです。

ALA科目群では、小人数クラスによる密接な指導を基とした知識や精神性の伝達を行います。担当教員と大学院生が議論によって切磋琢磨する授業は、まさにリベラルアーツの原点と言えます。様々な学問的背景を持つ教員、学生、社会人が共修する環境で、是非、専門的知識と専門外の知識を組み合わせ、同志社大学の学生らしい、複眼的な視野を獲得して欲しいと考えています。

### ● フューチャーデザイン演習

期間中  
1回以上

プロジェクト生には、ALA科目群の中から、「フューチャーデザイン演習」を必ず受講していただきます。同演習では、自然・人文・社会科学的な手法で環境に関する主要課題を抽出し、将来世代の視点に立った技術アイデアを構想し、新技術のプロトタイピングを行います。

このプログラムは、大学院生だけでなく、社会人も共に受講します。様々な学問的背景を持つ、学生、教員、社会人等多様性にあふれた環境で学ぶユニークなプログラムとなっています。自らの研究テーマから視野を広げるとともに、社会人との共修を通じて、企業研究者等へのキャリアパスのイメージが広がることも期待しています。

### ● Capacity Development for Coexistence and Cooperative Works

博士課程修了後の活躍の場は多様です。この科目では、担当講師による講義に加えて、国際機関、政府機関、グローバル企業など、さまざまな分野からゲストスピーカーやトレーナーを招きます。ゲストは、実際の仕事の経験を話すだけでなく、博士課程の学生が大学生活をキャリアパスの観点から最大限に活用する方法や、自分のキャリアをどのように設計できるかについての個人的な見解も共有します。

本科目の履修を通じ、グローバル化された世界において自分自身のキャリアパスを設計し、就職活動に必要なスキルを身につけることを目指します。

### ● セルフアウェアネス(コーチング入門)

博士課程修了後、専門的な知識やスキルだけではなく、自己理解やコミュニケーション能力が重要な役割を果たします。特に、研究者としてのキャリアを築く上で、自分自身の感情や意見を深く理解し、それを他者と共有する能力が求められます。自分自身を知る技術を学ぶことで、他者との協働やコミュニティ形成における強力な基盤を築くことができます。

研究や職場での対人関係は、ヒトとの協働が不可欠です。自分の思考や感情に向き合い、それを整理することで、他者とのコミュニケーションがより円滑になり、チームワークやリーダーシップ能力が向上します。技術が進歩する現代において、ヒトとの関わり方を磨くことは、研究者としてだけでなく、社会で活躍するための必須スキルです。

この講義を受講することで、今後のキャリアにおける大きな武器となる「自己理解」を深め、他者との協働を成功させる第一歩を踏み出せるでしょう。

### ● その他(「次の環境」協創コース/GRMコース/Comm5.0提供科目)

上記のほか、大学院共通科目アドバンスト・リベラルアーツ科目群のなかから、自身が必要とする科目を履修し、役立ててください。

# 各プログラム紹介 (キャリア支援)

## インターンシップ

随時

国内や海外インターンシップへの参加を強く推奨しています。インターンシップについては、就職を前提とする一般的なものだけではなく、大学院教育の一環として、予め企業側から提示されるジョブディスクリプション(業務内容、必要な能力・知識)に基づき、自身と合致するものについて、長期間(2ヵ月以上)かつ有給で行う「ジョブ型インターンシップ」や、指導教授等が企業と締結する共同研究契約のなかで有給で行う「共同研究型インターンシップ」があります。

インターンシップに参加することで、産業界や民間企業でのキャリアパスについての理解が深まり、将来の選択肢が広がるとともに、研究とは異なる環境での経験は、新たな視点やアイデアが生まれる機会ともなり得ます。また、自身の専門知識や研究スキルがどのように実際の問題解決に応用されるかを体験し、自分の強みと弱みを客観的に評価する良い機会となります。

研究とは直接的には関係がないように見えるインターンでも、博士課程の学生にとっては新たなスキルや視点を得る絶好の機会となり、長期的なキャリア形成に大いに役立ちますので、積極的な参加を期待しています。

## 国内インターンシップ

採用時に  
登録必須

プロジェクト生には、ジョブ型インターンシップのシステムに登録することを求めています。

ジョブ型インターンシップのシステムを通じて、企業が求める人材像(業務内容、必要な能力・知識等)を知ることができます。積極的に情報収集し、自らのスキルアップの参考にしてください。また、マッチングの取れたジョブディスクリプションを発見した場合には、実際にジョブ型インターンシップに参加してみることをお勧めします。

## 海外インターンシップ

審査  
選抜

海外インターンシップについては、渡航費等も生じるため、本プロジェクトから資金支援を行います(最大40万円/年)。

この支援は、海外活動費の支援と重複して受給することができますが、毎年度、早期に計画が確定したのから順に最大3件の支援と限定されていますので、本支援を希望する場合は、早めに計画を立案し、事務局まで申請していただくようお願いします。

### 最大40万円(年額)の支援

# 各プログラム紹介（キャリア支援）

## ガイダンスやロールモデルを通じた学び

### ● 博士キャリアガイダンス

期間中  
1回以上

5月  
10月  
12月

博士後期課程修了後の活躍の場として、アカデミア以外も含めた多様なキャリアパスへの理解を深めていただきます。毎年度、全3回程度のガイダンスを体系的に実施します（博士人材のキャリアに関する概要、アカデミアにおけるキャリア形成、企業や公的機関などアカデミア以外でのキャリア形成の3回の予定）。

本ガイダンスを通じ、アカデミアだけでなく、企業や公的機関など、幅広い進路選択肢を提供し、将来の多様なキャリアパスを考える機会や疑問を解消する場とします。

博士後期課程に進学した大学院生は、アカデミアを志向する傾向にあります。博士課程修了後にアカデミア以外で活躍している社会人もたくさんいます。多様なキャリアへの理解を深めることで、自身のキャリアパスの可能性を広げていただくため、採用期間中、かならず一回は受講していただきます。

### ● 博士キャリアカフェ

期間中  
1回以上

6～2月  
で計4回

アカデミア、企業、公官庁等、様々な立場で働く博士人材（ロールモデルとなる先輩）を講師として招き、学生時代の研究活動やキャリア開発、キャリアパス選択における経験談や現所属での研究活動等を語っていただきます。

博士キャリアガイダンスとは異なり、基本的に少人数の座談会形式（対面またはオンライン）で実施します。少人数で実施することにより、よりリアルで深い話を聞ける機会となること、日頃聞きにくいことを聞ける雰囲気とすることを狙いとしています。また、博士キャリアカフェを通じた講師（先輩）との繋がりが、キャリア形成に発展していくことも期待しています。

毎回、様々なバックボーンを持ち、様々な立場で働く博士の先輩方を講師として招きます。積極的に参加していただくことで、自身のロールモデルとなり得る先輩に出会うことを願っています。

## 様々な交流を通じた学び

### ● プロジェクト生交流会

4月9日

期間中  
1回以上

毎年度、新たなプロジェクト生の採用にあわせて、プロジェクト生全員が集まる交流会（半日程度）を開催します。研究分野やバックボーンを異にするプロジェクト生同士が、専門領域の知識・知見、価値観や考え方の違い等を互いに学び合う場とします。異なる分野の専門家が集うことにより、研究に関する新たな着想や気づきを得ることも狙いとしています。

また、交流会の場は、研究以外の情報交換の場にもなります。博士後期課程学生という同じ立場におかれた学生同士が、将来のキャリア展望や悩みについても相談しあひ、互いのキャリア開発につなげていただくことも期待します。

学生時代に築いたこのような関係性は、将来にわたって互いに助け合い、高め合う貴重なつながりとなるでしょう。

### ● 企業交流会「博士キャリアメッセ」

選抜  
(発表者)

期間中  
1回以上

7月  
11月

プロジェクト生には、アカデミアに限らず、産官学に跨る幅広いキャリアパスに関する情報・動向を理解し、長期的な視点で博士人材としての活躍の可能性を広げていただきたいと考えています。本プロジェクトでは、京都・奈良の7大学及び京都に本社を置く世界的に活躍する企業と連携し、博士学生や企業関係者が交流する場「博士キャリアメッセ」を開催しています。博士キャリアメッセでは、企業からの講演、博士学生による研究発表、互いの情報交換や交流の場を提供します。

企業が求める博士人材像を知ること、企業における研究や技術開発の実態を知ること、自らのキャリア開発につながります。また、自らの研究を伝えることによって、研究を社会に活かすためのヒントを得ることができるともありません。企業関係者との交流は、将来的なキャリアパス計画や産業界での研究の活かし方について学ぶ貴重な機会となるでしょう。

# 各プログラム紹介（キャリア支援）

## 博士キャリア・コーディネーターによる総合支援

### ● 博士キャリア面談

年2回

①5月～7月  
②12月～2月

プロジェクト生には、年2回（春学期、秋学期）の博士キャリア・コーディネーターによる面談を行います。キャリア志望や課題について確認し、個々人に適したキャリア支援を提供します。博士号を持つ博士キャリア・コーディネーターは、自身も博士課程を修了した経験もあるため、研究生での苦労や悩みなども理解しながら、広く相談に乗ってくれるでしょう。

### ● 進路相談等（オフィスアワー）

プロジェクト生は、年2回の博士キャリア面談を受けることとされていますが、これ以外においても、研究生生活において悩み等があった場合、随時、博士キャリアコーディネーターが対応します。所属する研究室以外で、異なる視点や専門知識を持つ人からアドバイスをすることで、問題への新たな解決策が見つかることや、自身の研究に対する客観的な見方にも気づきを得ることでしょう。

## その他の支援

### ● 日本学術振興会DC申請相談

日本学術振興会特別研究員（DC）は、アカデミアのキャリアパスを描く博士後期課程学生にとって「登竜門」とされる重要な制度です。採用されると、研究奨励費や活動費が支給され、経済的負担を軽減しつつ研究に専念できる環境が整います。DCの採用実績は、将来のアカデミックキャリアにおいて高く評価され、アカデミアポジション取得の際にも有利に働くと言われています。また、応募書類の作成を通じて、研究計画を論理的にまとめるスキルも身につきます。特に、アカデミアのキャリアを目指す方は、積極的にチャレンジしてください。

DCの申請書の作成においては、本学URA等によるブラッシュアップ支援を受けることもできます。

### ● 社会人基礎力測定（PROGテスト）

年1回

2月

社会で求められる汎用的な能力・態度・志向（以下、ジェネリックスキル）を客観的に測定するPROGテストを受けていただきます。測定結果に基づき、自身の成長や課題を客観的に振り返り、今後の自身の活動に活かしていただくことを期待しています。また、この結果は本プロジェクトの各種プログラムの効果測定の参考として活用させていただきます。

## 年間スケジュール

本プロジェクトに採用されれば、所属研究科における専門分野の学びに加え、体系的に用意された各種プログラムを受講いただけます。プロジェクトの趣旨から毎年度の受講を推奨するものから、複数の実施回から選択して受講していただくものまであります。博士後期課程での学修は多忙を極めますので、採用前から確認を行い、採択後は速やかに計画的な受講を心掛けてください。年間スケジュール及び2025年度実施予定日については、17頁～の一覧表をご覧ください。















**同志社150周年、  
その先の未来はあなたの双肩に。  
真理の扉を開き、新たな道を拓け!**

同志社大学大学院博士後期課程  
次世代研究者挑戦的研究プロジェクト  
(SPRING)